

洗 剤 等 の 出 荷 実 績 概 況

2020年（令和2年）1月～12月
（出荷単位：t・%：前年同期比）

2020年度（1—12月）日本クリーニング用洗剤同業会（以下当同業会という。）に加盟する16社の出荷実績は36,293トン・前年比で7,112トン減の83.6%となりました。

上期（1-6月）は17,316トンの出荷で前年比3,156トン減の84.6%、下期（7-12月）は18,977トンの出荷で前年比3,956トン減の82.7%となりました。

当同業会といたしましては、2019年までは5年連続の出荷増でありましたが、2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けてホームクリーニング分野・テキスタイルリネン分野とも市場が低迷し、出荷減となりました。

今回の報告は2019年に当同業会に新規加盟の4社を含み16社の出荷統計となっております。

年度 (会員数)	2018年出荷実績 (会員12社統計)		2019年出荷実績 (会員16社統計)			2020年出荷実績 (会員16社統計)					
	年間	前年比	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
項目 / 期・年度・前年比											
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	129	92.8%	68	56	124	54	79.4%	47	83.9%	101	81.5%
ドライクリーニング用洗剤(フッソ系)	45	93.8%	23	19	42	18	78.3%	17	89.5%	35	83.3%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	931	93.2%	518	435	953	438	84.6%	355	81.6%	793	83.2%
ドライ合計	1,105	93.2%	609	510	1,119	510	83.7%	419	82.2%	929	83.0%
ランドリー用石鹼	276	92.9%	128	118	246	116	90.6%	104	88.1%	220	89.4%
ランドリー用合成洗剤(粉末)	18,418	98.8%	9,124	10,007	19,131	7,162	78.5%	7,517	75.1%	14,679	76.7%
ランドリー用合成洗剤(液体)	10,375	107.5%	6,014	7,085	13,099	5,511	91.6%	6,251	88.2%	11,762	89.8%
ランドリー用合成洗剤合計	28,793	101.7%	15,138	17,092	32,230	12,673	83.7%	13,768	80.6%	26,441	82.0%
ランドリー用ソフター合計	5,816	102.9%	3,068	3,519	6,587	2,730	89.0%	3,198	90.9%	5,928	90.0%
（うち濃縮タイプ）	867	98.2%	485	529	1,014	397	81.9%	470	88.8%	867	85.5%
ランドリー用粉末漂白剤	1,233	88.8%	636	648	1,284	523	82.2%	584	90.1%	1,107	86.2%
再販用合成洗剤合計	1,060	88.0%	476	613	1,089	436	91.6%	562	91.7%	998	91.6%
（うちコンパクト）	486	91.0%	191	294	485	176	92.1%	257	87.4%	433	89.3%
合成糊剤	897	93.7%	417	433	850	328	78.7%	342	79.0%	670	78.8%
年別総合計	39,180	100.5%	20,472	22,933	43,405	17,316	84.6%	18,977	82.7%	36,293	83.6%

当同業会の顧客は、①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ（リネンサプライ・病院寝具・ダストコントロール・ダイアパー4団体）③おしぼり業者④施設ランドリー（コインランドリー含む）であり、洗剤メーカーの立場から顧客概況を含めご報告致します。更に、項目別出荷概況を報告いたします。

1. ホームクリーニング市場

ホームクリーニングは、2020年度1-12月度の総務省統計局『家計調査報告』洗濯代によると全国・（二人以上の世帯）のクリーニング代支出額は、4,660円で前年比1,277円減の78.5%となりました。また、洗濯代支出額の大きい勤労世帯（二人以上の世帯のうち勤労世帯）でも5,225円で前年比1,378円減の79.1%となりました。

これまでを振り返ると2005年に始まったクール・ビズは定着し、2019年はビジネスカジュアルも本格化しこちらも定着化しております。更に企業の働き方改革の一環として推進されていた在宅勤務は、コロナ感染症拡大により一気に加速し、ホームクリーニング市場に大きな影響を与えたものと推察しております。今後のホームクリーニング市場動向を把握し、対策を講じる必要性が重要と考えております。

2. テキスタイルリネンサプライ市場

－1) ホテル分野

ここ数年ホテルリネン分野は、都市圏を中心にホテルの施設数が増加し、市場規模も増加傾向となり、大いに期待した分野でありました。しかし、コロナ感染症の影響を受けて海外訪日客数は激減し、国内旅行者も行動規制により、客室稼働率が大きく減少する結果となりました。

日本政府観光局（JNTO）調査報告の推定値によると 2019 年海外訪日客総数は 3,188 万 2100 人に対し 2020 年は 1 月以降から大きく減少し 411 万 5900 人となり前年比 87.1%減となりました。

一方、国内需要拡大を狙った GoTo トラベルキャンペーンは、ホテル稼働率低下に歯止めをかけたものの、第 3 波の拡大時に中止となり、その効果は一時的なものとなってしまいました。

－2) 病院リネン関連・ダイアパー分野

①. 病院リネン関連（病院寝具・ダイアパー「貸しオムツ」）市場に大きく関連する病床数は、厚生労働省医療施設調査によると、総病床数は、2019 年 12 月末と 2020 年 12 月末の比較で、161.7 万病床が 159.6 万病床と 2.1 万病床が減少しております。また、病院病床数は 152.7 万病床が 151.0 万病床と 1.7 万病床減と減傾向が継続しております。ここ数年の当分野の傾向として、上記病床数減少による基準寝具の微減分を、入院患者の私物洗濯、医療作業従事者のユニホーム洗浄、1 日単位で入院患者にレンタルする入院セット等の需要の伸びでカバーしており、比較的安定的であると推察しております。しかしながら、2020 年は病床減に加え、コロナ感染症の影響で入院患者を絞る動きもあり、病院リネンも微減しているものと推定しております。

寝具類は医療事業機関等から衛生に対する要望が高まっており、今までも当同業会は除菌・抗菌剤の提供等衛生に関する支援を行ってまいりました。今後は、更に抗ウイルスへの対策も求められつつあり、当同業会としても、課題解決に取り組んでまいります。

②. ダイアパーは病院寝具以上に減少し、貸しオムツから紙オムツへの移行が継続しております。入院患者に対し貸しオムツと使い捨て紙オムツの提供を展開するも、スーパー・ドラッグストアの安価品購入も減少傾向の大きな要因と推察致します。

－3) ダストコントロール分野

ダストコントロール分野はテキスタイルリネンサプライ市場の約半分を占める分野で景気停滞による需要の減少傾向が継続しております。リース離れや交換期間の延長、家庭向けモップリース製品は他流通からの購入へ移行、更に他のリネン分野からの参入などにより、価格競争が激化し厳しい分野環境が長期化していると推察致します。しかしながら当分野はコロナ感染症の影響は比較的小さかったと推定しております。特に、この分野は、マット・モップの使用上の特徴から超ハード汚れを洗浄する技術が求められており、更に多種多様な素材変化に対応していく事も近年重要になりつつあります。当同業会としては、リース品の耐久性も含め高度な洗浄技術を提供し、課題解決に向けた取組を実現したいと考えます。

－4) おしぼり・施設ランドリー（コインランドリー含む）分野

おしぼり分野は、新型コロナウイルス感染症の影響による、外食産業の営業自粛・時短営業要請により、おしぼりの使用場面が激減し、ホテルリネン同様に最も苦戦した分野となりました。また、企業の働き方改革（テレワーク）が進む中で、飲食店の来客数は減少する可能性があるかと推察し、厳しい市場環境は継続する可能性があるかと推察します。一方、この分野は特に衛生意識の高さが定着しつつあり、今後の市場動向を見守りたいと考えております。

施設ランドリーはコインランドリーがここ数年は増加傾向でありました。20 年は施設ランドリーにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響は少なく、安定した分野であったと推察します。また、衣類の衛生意識が高まる中で家庭洗濯同様に抗菌配合洗剤・柔軟剤へのブランドスイッチが進んでいると推察いたします。

3. 2020年度総計・タイプ別出荷状況報告

一1) ドライ用洗剤

年度 (会員数)	2018年出荷実績 (会員12社統計)		2019年出荷実績 (会員16社統計)			2020年出荷実績 (会員16社統計)						
	項目 / 期・年度・前年比	年間	前年比	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
	ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	129	92.8%	68	56	124	54	79.4%	47	83.9%	101	81.5%
	ドライクリーニング用洗剤(フッソ系)	45	93.8%	23	19	42	18	78.3%	17	89.5%	35	83.3%
	ドライクリーニング用洗剤(石油系)	931	93.2%	518	435	953	438	84.6%	355	81.6%	793	83.2%
	ドライ合計	1,105	93.2%	609	510	1,119	510	83.7%	419	82.2%	929	83.0%

ドライクリーニング用洗剤合計は前年比で190トン減の83.0%となり、上期・下期共に前年割れの出荷実績でありました。長期的な縮小傾向が継続しております。

パーク系は、前年比で23トン減の81.5%、減少傾向に歯止めが掛かからず、1992年のピーク時1,937トンから1,836トン減となりパーク系ドライ市場の未来は非常に暗い状況となっております。

フッソ系は、前年比で7トン減の83.3%となり、1992年のピーク時772トンから737トン減となり、ここ数年のトレンドは減少傾向であり、今後の出荷状況確認が必要でパーク同様に未来は厳しい状況となっております。

石油系は、前年比で160トン減の83.2%となり、石油系の減少傾向も継続すると推察しております。

『新しい取扱い表示記号』の施行による、洗濯方法を表示記号に応じたウェットクリーニングへ移行する広がりとの可能性もあると推察します。

一2) ランドリー石鹼

年度 (会員数)	2018年出荷実績 (会員12社統計)		2019年出荷実績 (会員16社統計)			2020年出荷実績 (会員16社統計)						
	項目 / 年度・前年比	2018年 (年間)	前年比	2019年 (上期)	2019年 (下期)	2019年 (年間)	2020年 (上期)	前年比 (上期)	2020年 (下期)	前年比 (下期)	2020年 (年間)	前年比
	ランドリー用石鹼	276	92.9%	128	118	246	116	90.6%	104	88.1%	220	89.4%

ランドリー石鹼は前年比で26トン減の89.4%となり、減少傾向が継続しランドリー用合成洗剤への移行が長期的に進んだ結果と推察致します。当同業会の課題として、出荷量の減少は製造コスト高になり、安定供給を果たす為には価格改定をお願いするケースもあると考えております。

一3) ランドリー用合成洗剤

年度 (会員数)	2018年出荷実績 (会員12社統計)		2019年出荷実績 (会員16社統計)			2020年出荷実績 (会員16社統計)						
	項目 / 年度・前年比	2018年 (年間)	前年比	2019年 (上期)	2019年 (下期)	2019年 (年間)	2020年 (上期)	前年比 (上期)	2020年 (下期)	前年比 (下期)	2020年 (年間)	前年比
	ランドリー用合成洗剤(粉末)	18,418	98.8%	9,124	10,007	19,131	7,162	78.5%	7,517	75.1%	14,679	76.7%
	ランドリー用合成洗剤(液体)	10,375	107.5%	6,014	7,085	13,099	5,511	91.6%	6,251	88.2%	11,762	89.8%
	ランドリー用合成洗剤合計	28,793	101.7%	15,138	17,092	32,230	12,673	83.7%	13,768	80.6%	26,441	82.0%

ランドリー用合成洗剤(粉体)は、ここ数年は微減傾向であり、2018年は前年比98.8%、2019年も98.7%でしたが、2020年は4,452トン減で76.7%と大きく出荷減に転じました。特に、2020年2月ごろより新型コロナウイルス感染症の影響を受けた経済活動の規制により、ホテル客室稼働率の激減と外食産業の自粛により、ホテルリネンサプライヤー・おしぼり業者の稼働が大きく落ち込んだためであると推察いたします。ランドリー用合成洗剤(液体)は、前年比1,337トン減の89.8%となりました。出荷減少幅が粉末洗剤より小さかった要因は、粉末タイプから液体タイプへの移行が進んでいること、また施設ランドリー・コインランドリーが比較的安定であったためと推定します。今後も液体洗剤を使用するコインランドリー施設への出荷増とホテル・病院寝具分野で液体洗剤類の自動投入機対応により、液体洗剤は今後も増加していくものと推察しております。この自動投入機対応によるトータルコストメリットや生産安定化に寄与できるなどの判断が増えていくと、テキスタイルリネンサプライ市場では粉末洗剤から液体洗剤への移行が進み、需要が更に増加するものと推察します。

ー 4) ランドリー用ソフター・漂白剤・合成糊剤

年度 (会員数)	2018年出荷実績 (会員12社統計)		2019年出荷実績 (会員16社統計)			2020年出荷実績 (会員16社統計)					
	2018年 (年間)	前年比	2019年 (上期)	2019年 (下期)	2019年 (年間)	2020年 (上期)	前年比 (上期)	2020年 (下期)	前年比 (下期)	2020年 (年間)	前年比
ランドリー用ソフター合計	5,816	102.9%	3,068	3,519	6,587	2,730	89.0%	3,198	90.9%	5,928	90.0%
(うち濃縮タイプ)	867	98.2%	485	529	1,014	397	81.9%	470	88.8%	867	85.5%
ランドリー用粉末漂白剤	1,233	88.8%	636	648	1,284	523	82.2%	584	90.1%	1,107	86.2%
合成糊剤	897	93.7%	417	433	850	328	78.7%	342	79.0%	670	78.8%

①. ランドリー用ソフターは前年比 659 トン減の 90.0%となり、ランドリー合成洗剤液体タイプと同様にテキスタイルリネンサプライでは厳しい状況であったものの、施設ランドリー・コインランドリーでは比較的安定であったと推察します。一方、濃縮タイプはテキスタイルリネンサプライヤーでの使用が多く、前年比 147 トン減の 85.5%の出荷量でした。

②. ランドリー用粉末漂白剤は前年比 177 トン減の 86.2%となりました。近年は減少傾向が継続しており、粉末漂白剤のユーザーであるホームクリーニング市場の縮小傾向と連動しているものと推察しております。

③. 合成糊剤は前年比 180 トン減の 78.8%となりました。シーツやカッターシャツ・ワイシャツ等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少傾向にあると推察します。

ー 5) 再販用合成洗剤

年度 (会員数)	2018年出荷実績 (会員12社統計)		2019年出荷実績 (会員16社統計)			2020年出荷実績 (会員16社統計)					
	2018年 (年間)	前年比	2019年 (上期)	2019年 (下期)	2019年 (年間)	2020年 (上期)	前年比 (上期)	2020年 (下期)	前年比 (下期)	2020年 (年間)	前年比
再販用合成洗剤合計	1,060	88.0%	476	613	1,089	436	91.6%	562	91.7%	998	91.6%
(うちコンパクト)	486	91.0%	191	294	485	176	92.1%	257	87.4%	433	89.3%

再販用合成洗剤は、前年比 91 トン減の 91.6%となりました。長期の減少傾向に変わりはないと推察致します。1994 年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷でありましたが、年々市販品との競争が激化し、衰退項目となり濃縮タイプも前年比 52 トン減の 89.3%と減少傾向が継続しております。市販の粉末合成洗剤の低価格、利便性に加え、他流通からの液体洗剤参入の影響を受け、このトレンドは継続するものと推察します。

4. まとめ

当同業会の 2020 年度の出荷総計では前年比 7,112 トン減で 83.6%という結果でありました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた年で経済活動・消費行動・働き方改革など大きく変化した年でありました。

期待されたオリンピック・パラリンピックは 2021 年へと延期になり、訪日外国人の入国規制による来客数の激減によるインバウンド効果もなくなった年でありました。

ホームクリーニングの長期低迷、特にドライクリーニング用洗剤の下落傾向は深刻に捕らえております。また、最近の新型コロナウイルス感染症のクリーニング業界に与える影響がどのようなものかを慎重に見極めると共に適切に対応して参りたいと考えております。

当同業会 16 社は洗浄技術を更に発展させ、消費者動向・業界変化に敏速に対応し業界発展に貢献致します。

以上